

第26回 夏の講演会・講習会を開催しました!!

8月19日（火）、20日（水）に大阪府立中央聴覚支援学校にて、第26回夏の講演会・講習会を開催しました。

今年度は、日本教育オーディオロジー研究協議会との共催により、初めての研修会を開催することができました。近畿地区における実践の共有に加え、全国的な視点からの学びや交流を得る貴重な機会となりました。ご参加・ご協力くださった皆さまに心より感謝申し上げます。

参加されました皆さまからお寄せいただいたアンケートからの感想を交えて、第26回夏の講演会・講習会の様子を報告いたします。

令和7年 8月19日（火）1日目 会場：大阪府立中央聴覚支援学校

○聞こえのしくみと聴力測定

- ・聴力測定を行う意義等基礎的なことがよくわかりました。
- ・基礎の内容を丁寧に教えてくださって分かりやすかったです。
- ・実際に聴能室を見せていただけたことが良かったです。



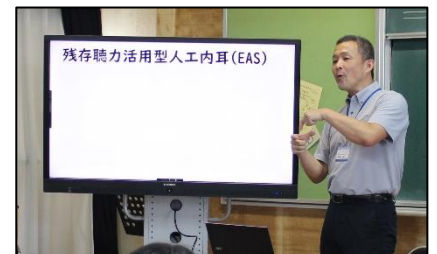
○聴力・補聴器測定に関する音響心理

- ・音の圧力や耳管や補聴器のチューブの長さなどで聞こえが変わってくる事が分かった。また、音色も人それぞれ違うことが分かりました。子どもが補聴器をつけた瞬間の言動は注意してみる必要があるなと思った。
- ・気になっていたことを教えていただけて良かったです。
- ・dB の捉え方や、音色の大切さなど、新たな気づきが多くあり大変勉強になりました。
- ・物理的な内容で難しかったですが、その分、真剣に話が聞けました。お話は知らないことばかりでとても勉強になりました。



○人工内耳の基礎

- ・わかりやすくまとめて頂きありがとうございました。模型があったりコクレア社の人工内耳を実際に手にとってみたり、有り難かった。
- ・人工内耳のしくみについて改めて詳しく学ぶことができました。
- ・人工内耳の聞こえのシュミレーションも貴重な体験ができました。
- ・音楽などの聞こえづらさがなぜ生じるのかを分かりやすく理解することができました。
- ・どのような人工内耳の種類があるのかや、学校で注意すべき点など、細かく基礎の部分まで知ることができた。
- ・管理の仕方など、児童にも直接指導できる内容で、とても参考になりました。活用させていただきます。ありがとうございました。



○重複障害



- ・子どもの反応や表情の様子などをしっかりと見て、どんな支援が必要かを教員間で話し合っていかなければと強く思いました。
- ・改めて、個への対応を大切にしていきたいと思いました。
- ・多種多様な障害を併せ持つ児童たちに対しては、やはり個々のニーズを把握しながらやっていくしかないのだと思いました。
- ・知的発達症には、抽象的ではなく、实际的・具体的な語彙の方が習得されやすいというのを聞き、指導に迷っていたのでそれにより方向性がハッキリ見えたので嬉しかった。
- ・子どもからの発信を見逃さずに受け取り、受けとめられる保育者・保護者でありたいと改めて思いました。

○補聴器の管理

- ・実際の補聴器に触れてメーカーによって音質の違いが分かりました。クリアに聴こえて体感出来てよかったです。補聴器があっても全てクリアに聴こえているわけではなく、言葉の意味を理解しているかしっかり教師が把握しないといけにことなど知らないことが沢山ありました。
- ・今回、二課題、グループで話し合う機会があり、いろいろな状況や対応方法があることを知ることができた。つい、聴能の先生を頼りがちだが、自分達でできる確認があることをグループ討議の中で理解できて良かった。



○難聴学級の支援や指導方法



- ・日々の実践を例に、具体的に話をされていて、とても分かりやすかったです。多くの地域では、難聴学級が設立されても、子どもの卒業と同時に難聴学級がなくなるので、専門性の継承が難しい課題がありますが、発表されていた実践は専門性が高く、難聴学級のセンター校があることはとても魅力的に感じました。私が支援している地域の学校にも伝えたい内容が多くて勉強になりました。
- ・他校の難聴学級での取り組みを知る機会が無いので、大変参考になりました。自己認識を深める学習について知りたかったので、実践に生かしたいと思います。

○人工内耳の応用

- ・マッピングの方法やどのように音を入れて行くのか、現場ではわからないところまで教えて頂き、参考になった。
- ・人工内耳のマップについて詳しくお話いただき、マップからわかることがたくさんあるんだと初めて知りました。保護者が知らないこともあると思うので、保護者とも連携しながら子どもを見ていきたいと改めて思いました。ありがとうございました。
- ・事例は、人工内耳に関わる教育相談の難しさでもあると思います。医療、教育、福祉、多くの観点で考えられたことが良かった。



○幼稚部の自立活動



- ・子どもが自己確認や選択し、主体的な関わりできることが大切だと教えていただきました。動画でわかりやすく、具体的な指導例を見せていただき、大変参考になりました。
- ・今まで遊びと言語の獲得をどうやっていったらよいのか、常に悩んでいたことの解決策がわかりました。明日にでも実践できることばかりでとても勉強になりました。
- ・具体的な実践例とビデオも用意していただき、本校の子たちにするなら…とイメージを膨らませながら見ることができました。
- ・音遊びの例以外にも、声かけの仕方やねらいの設定など細かいところもお話していただき参考になりました。

○補聴援助システム

- ・ロジャーやエデュマイクの試聴をさせていただき、マイクの有無による聞こえ方の違いを体験することができました。子どもによって聞こえ方は異なるため、1人1人に合わせた補聴器の繊細な調整がいかに重要であるか、改めて考えさせられました。聴能担当の先生方の技量と日々のご苦勞に改めて敬意を表したいです。
- ・機器が万能ではないという話や、実際使用するにあたってそれぞれの立場からどのような困り感があるのか等、リアルな話が多くの勉強になった。
- ・補聴援助機器の試聴をしてみて、それぞれの機器の聞こえの違いを体感できた。最近ロジャーの効果を前面に出しているが、導入にあたっては具体的にメリットデメリットをあげたうえで使い方を説明したり一緒に考えたりすることが大切だと感じた。



○福祉制度

- ・福祉制度の申請の仕方や、等級についてよくわかりました。
- ・知らなかった制度もあったので、自分の自治体の制度を確認しようと思いました。
- ・「等級」ということばで、手当等級と手帳等級がごちゃごちゃになっていたが、今回、整理できて良かった
- ・奈良県の話であることを踏まえた上で、国の施策と各自治体の動きを整理して場合分けしていただいたことで、よく分かりましたし、自治体への働きかけにも繋がり、ありがたいと思いました。



○ことばの聞き取り評価

- ・人工内耳をしていても音の弁別が難しいお子さんがいるのですが、その理由が少しわかった気がして、フォルマントによる音の識別のお話がとても興味深かったです。67語表と67-S表の違いなど、今までわからなかったことがわかり、とてもすっきりしました。
- ・見やすいフォルマントなどの画像やまとめられた表などを用意していただき、大変わかりやすかったです。また子どもたちの聞こえを的確に把握しておく大事さに改めて気付かされることが多かったです。
- ・周波数によって音の聞こえが違うという細かい所まで初めて知れました。





○ABR

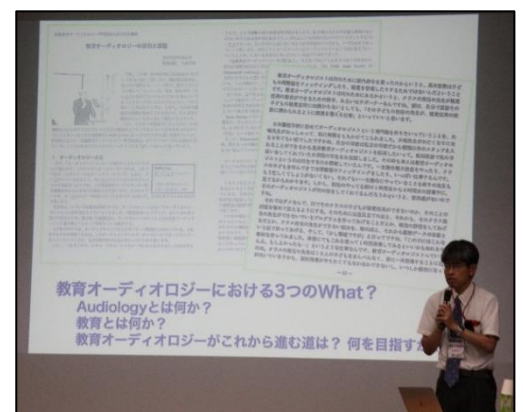
- ・どのように検査を行なっていくのか、流れを知ることができた。また、図の見方などこの波を見るのかを詳しく学ぶことができた。
- ・体験すること(見る)で、説明していただいた内容の理解が深まりました。とてもわかりやすかったです。
- ・実際の ABR を見せていただくことができ、分かりやすかったです。子どもたちや親御さんがこんなに苦労して検査に来ていたことも初めて知りました。そのことにも思いを向けて、親御さんたちにも関わっていかうと思いました。
- ・ABR の検査の仕方を初めて見ることができ、大変勉強になりました。また、検査当日は寝不足のほうで、睡眠導入がしやすく検査が上手くいくことが高いなど、実際の現場の話聞くことができ良かったです。

令和7年 8月20日(水) 2日目 会場:大阪府立中央聴覚支援学校

○全体講座『これからの教育オーディオロジーと3つの WHAT?』

富澤 晃文 先生(国際医療福祉大学)

- ・「オーディオロジー」について掘り下げてお話いただいた内容では、「補聴器は2人で使うもの」という話が印象にのこりました。「教育」に関しては、発達や子育ての視点が聴覚障害への支援を考えるうえでも欠かせないものなのだと知ることができました。「これから進む道」については、オーバーヒヤリングの困難さは簡単に想像できるだけに、どのようなアプローチができるのか、実践を進めていけるとよいのかなと思いました。貴重なお話をありがとうございました。
- ・この講座の中でも一番心に残ったこと「肯定的な対話は肯定的な自我の形成を促す」ということ。自分の子どもへの関わりが肯定的であるか、子どもだけでなく、職員にたいしてもどうか、振り返り、今後意識して関わりたいと思った。
- ・例を挙げてお話いただき、とてもわかりやすかったです。教育に対する愛情や情熱が伝わってきました。まだ道半ばだとおっしゃっていました。私もまだまだこれから学びを深めていきたいです。
- ・「心やわらかな対話は、心やわらかな自我形成を促す」、「子どもを愛することが最も重要な専門性」など、日々の子どもとの関わりの中で、教員が大切に心に留めておかねばならないことをたくさん教えていただけました。
- ・聴覚障害教育への熱い思いと先人たちへのリスペクトを感じる講演でした。通常のきこえの発達について、しっかりと知った上で、きこえにくい子たちに必要なことを考えていきたいと思いました。
- ・言語教育は聴覚障害児の人格形成に関わることで、そこにオーディオロジーとしてどう関わるか、歴史的に、発達科学的にわかりやすく学びました。安心して聞けること、コミュニケーションできることが自己肯定感を育てることになる、まさにそう思いました。機器の進歩が子どもたちに恩恵をあたえられるよう、教育の立場で、聴能の発達を促せるよう、自身の力を高めたいと思います。そして、教師や親が限界を決めてしまわないように、今、目の前にある課題に真摯に向き合いたいと思いました。



○講演『聴覚障害教育の充実・発展を目指して』

村上 学 先生(文科省特別支援教育調査官)

- ・たくさんの資料をもとに、詳しくお話しいただき勉強になりました。事例もあり、わかりやすかったです。また、最後の「先生、僕がこまっているのはね」を読み、自分で自分の困り感を素直に話せること、話してもらえる関係を作ることの大切さを実感しました。ありがとうございました。
- ・たくさんのデータから聴覚障害教育の動向や主体的・対話的で深い学びなどについてお話いただき、客観的にとらえてみようとする視点を教えていただきました。課題は多々ありますが、今の自分にできることを考えていきたいと思います。貴重なお話をありがとうございました。
- ・「主体的、対話的で深い学びの実現」これは、対子どもに対してだけではないと感じた。私たち職員にも当てはまると感じた。講座の最後に「自ら学ぶ子どもは自ら学ぶ教員の元で育つ。学び続ける教員集団を作ること」とあり、私自身、学び続ける教員でありたいと思った。
- ・聴覚障害教育における「深い学び」への挑戦はしていかなければならないと感じました。能動学習に学ぶものは多いと思いました。プレッシャーにも感じますが、教師の責任だとも感じます。学び続ける教師であろうと強く思いました。
- ・データを元に現場の聾教育の特徴や課題などを知ることができ、自分の地域の課題や強みなどを改めて感じる機会になりました。教師の学びの姿も、子どもたちの学びの相似形という言葉はこれからも胸に留め、学び続けることを大切にしていきたいと改めて感じさせられました。



〈今後の予定〉

- 10月10日(金) 秋の講演会案内発送、機関誌91号発行
- 11月29日(土) 秋の講演会(大阪府社会福社会館)
演題 『手話言語学の基本と手話の獲得』
講師 武居 渡 先生(金沢大学)
- 12月 5日(金) 冬の学習会案内発送、機関紙92号発行



(令和8年)

- 2月 6日(金) 第3回代表委員会・専門研修会(滋賀県立聾話学校)
- 2月 7日(土) 冬の学習会(滋賀県)
演題 『 未定 』
講師 安岡 公美子先生(日野記念病院)
演題 『 未定 』
講師 田原 敬先生(茨城大学)

- 3月20日(金) 集録第26号発行、機関誌93号発行

近畿教育オーディオロジー研究協議会事務局

〒670-0012

兵庫県姫路市本町 68 番地 46

兵庫県立姫路聴覚特別支援学校内

TEL: 079-284-0331

FAX: 079-222-5237

メール: kinkieaa@gmail.com